

学級経営を中心とした校内サポートシステムの構築と効果に関する研究

—初任教師の集団指導力の育成をねらいとして—

学校教育専攻

学校改善コース

藤本美恵子

指導教員 佐古 秀一

1 研究の目的

本研究の目的は、若い教師が学級の経営に苦労し問題を抱えたまま困難な状況に追い込まれるような事態が生じていることについて、初任教師の学級経営における集団指導力を高める校内サポートシステムの構築を試み、その効果を明らかにしようとするものである。

2 集団指導力の構成要素

(1) 本研究における集団指導力のとらえ方

本研究では、集団指導力を4つの要素(①理解力②形成力③実践力④集団の理念)から成り立つ実践的な力と考えた。

① 理解力	学級の子どもたち一人ひとりを理解したり、集団の状況を診断したりする力
② 形成力	学級におけるルールづくりやよりよい人間関係づくりを行い、学級集団を形成していく力
③ 実践力	様々なノウハウや手だてを習得し、指導を行う実践的な力
④ 集団の理念	担任が、学級集団にもつ理想やイメージ

3 研究の課題

課題1 初任教師の集団指導力の向上を促す校内サポートシステムの実現

課題2 サポートシステムの有効性の検証

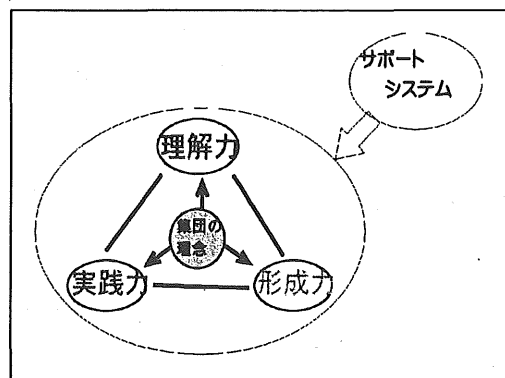
4 サポートシステムの試行

実際のサポートシステムは、A市B小学校で実施した。実施期間は、2008年4月から

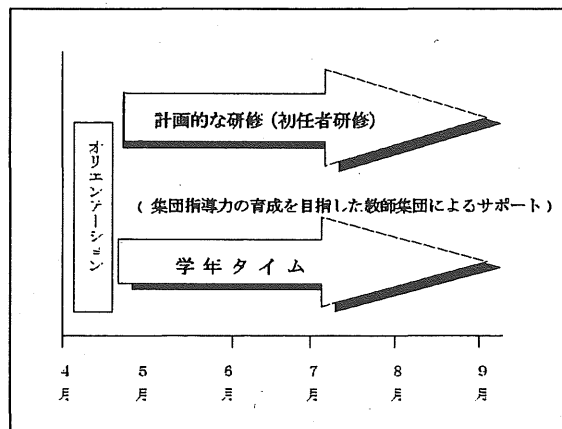
7月であった。校内でのサポートとして、初任教師が学級経営の問題や状況を話す時間を「学年タイム」として意図的に設定し、日常の学級の様子を自由に話せる場を設けた。

(1) 学年タイムの実施

学年タイムは、4月に3回実施したが、参加学年、参加者の見直しを行った。5月からの学年タイムは、初任教師Aを対象として、第2学年で週に1回30分程度実施することにした。毎回の参加者は、初任教師A、2年生学年主任、研究者であった。



【図1 集団指導力とサポートシステムについての関係】



【図2 サポートシステムの全体構想】

(2) 集団指導力育成の観点からみた効果

①理解力

- ・初任教師から、理解力にかかわる悩みは表出されなかった。
- ・先輩教師からは理解力にかかわる発話が25件あり、情報として提供された。
- ・先輩教師の経験から見出された個や集団の理解の仕方や学年の子どもの実態などの情報も提供された。
- ・主任による、初任教師が気づいていない子どもの問題に対する指摘がなされた。

②形成力

- ・初任教師からは、形成力にかかわる悩みは3項目表出された。
- ・先輩教師からは、形成力にかかわる発話が5件あり情報として流された。
- ・初任教師は、学年開始当初の学級のルールづくりの重要性を感じていたが、先輩教師からは、学級の秩序や普段の学級経営を重視してよりよい集団づくりを目指すこつなどが伝えられた。

③実践力

- ・初任教師からは、実践力にかかわる悩みは3項目表出された。
- ・先輩教師からの情報は、実践力にかかわる内容が一番多く37件交流された。
- ・初任教師は、具体的な情報の中から、自分やクラスの子どものに合った情報を選択して実践したこともわかった。このことから、初任教師の実践力の向上に作用したことがわかる。

④集団の理念

- ・初任教師から、子どもの現実と理想とのギャップに悩みを抱いた内容が1項目表出された。
- ・先輩教師は、現実の問題を解決するための手だてを出すだけでなく、初任教師がもっている理想そのものが現実に合わないということを示し、子ども観の修正や学級集団の理想を修正するような情報を与えた。

示し、子ども観の修正や学級集団の理想を修正するような情報を与えた。

5 考察

(1) サポートシステムの意義

1) 初任教師の表出した悩みの解決につながる情報の交流

「話の聞かせ方」「授業態度」「給食指導」「気になる子どもの交友関係」など初任教師の日常的な問題解決に関する情報が提供された。

2) 先輩教師からの積極的な情報提供

以下の内容について、先輩教師から積極的な情報提供がなされた。

①初任教師が気づかない気になる子どもの指摘

②先輩教師の経験による様々な指導の手だて

③子どもの内面の理解の仕方

④初任教師の子どもの見方に修正をかける情報

3) 集団指導力の4つの要素にかかわる情報の交換

本研究で想定した集団指導力の4つの要素(①理解力②形成力③実践力④集団の理念)すべてにかかわる情報が交換されたことにより、初任教師の集団指導力を促すサポートが実現できたと考えられる。特定のノウハウや手だてだけではなく、子どもの見方や集団の見方、学級のルールづくりの重要性など学級経営の集団指導力に必要な幅広い内容が交換され初任教師に伝わるということが認められた。

(2) 課題

1) 教師の時間の確保が難しい。

2) 現行の初任者研修制度とサポートシステムとの整合性やそれらに関連づけて学校の中で進めていくことが困難であった。

3) 初任教師を職員全体で育てるという意識が学校現場では低く、本研究のようなオープンな形で初任教師を育て合うことが難しい。